



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (632) 0156

緑もゆる初夏に

集いあい語り合いましたよー 第31回ー

平成二年六月二十四日(日)午後一時 東京新潟県人会館にて

さわやかな微風の、快い季節を迎えました。お交りなく、日々ご活動のことと思います。お互いの友情と懇親を深めるべく、左記の通り第31回目の集いを開催いたします。ご参加を心からお待ち申しあげます。

記

- 一、日時 平成2年6月24日(日)午後一時(正午より受付)
一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)
(銀座線) JR「御徒町」七分
一、会費 五〇〇円(料理・飲み物・果物)
一、お願い 返信は6月18日必着にてお送り下さい。

提言 会に若い人の力を

各簿には千三百名の会員が載っています。昨年の三十周年総会では、二百数十名の出席があり、その大きな力をますます感じ入った次第です。それなのに、若い人達の参加はまだまだ。会員のひとり一人が、若い人達に呼びかけて、参加を呼びかけようではありませんか。

長寿を祝って

十二回志会は三年前に喜寿の花火を揚げた。こんど傘寿を迎えるにあたり、せめて尺玉一発なりと奉納しよう。と、みんなで企画中。その実現が期待される。

会の動き

相崎尚次氏(前副会長)逝去 町の歳末警戒に出られて風邪をひき、それが元で急逝された。78才。会のために、骨身を惜しまぬご協力をいただいたのは、よく会員の知るところ。惜しみても余りある。告別式には会より多数の参列者があつた。 1月7日

役員会

1月21日

近づいてきた新年会の計画について協議した。また今後の会の発展を期すためには、新しい組織づくりが必須である、などの意見が出た。総会は6月24日に開催を予定。出席者9名。 秀和集会室にて

平成2年新年会

1月28日

二面参照 新潟県人会館
花見の旅(11回) 4月15、16日
奥湯河原 青巖荘
三面参照

会報の編集にご協力を

これまで毎年2回発行して、会員相互の連絡につとめてまいりましたが、私も高令になり、十分その仕事が出来なくなってきました。このままでは、今後のこともおぼつかないので、会員のどなたかに、引き継ぎたいと思います。志ある会員諸兄姉のご協力を切望いたします。どうかご理解を! (佐藤登八記)

住所変更

- 大2 安達 市郎 563大阪・池田市伏尾台1-8-1 0727-51-7322
6 帰山 すま 241横浜市旭区上白根町2-43-6
15 山田 富次 337浦和市大門3295大門ローヤルコーポ305
昭3 " イッツ "
2 小野塚 マツ 333川口市芝4051-3 0482-69-7500
5 杉本 静 247横浜市栄区本郷台3-19-24
" 佐藤 又次 371前橋市下大島町1302-9 0272-66-7283
18 大矢 茂一ノ町 316日立市桜川町2-56(新加入) 0294-33-0934
" 丸山 礼子二ノ町 276千・八千代市萱田町1111-9 0474-85-6444(佐藤)
22 友田 善智204清瀬市下宿2-405-16 0424-93-5261
24 " 澄子 "
26 佐藤 清司 179
27 丸山 良司 260千葉市藤町2-7-6-302
32 吉井 信三 214川崎市多摩区登戸1069-9 044-934-3671
35 工藤 イツ 277柏市十余二297-130 0471-32-3018
" 逝去
大8 谷内忠太郎(元.11.20) 昭3 丸山千代野(63.6.22)
12 相崎 尚次(2.1.4) 17 吉原 博(元.7.16)

昭37卒 永遠会

- 相崎 博 210川崎市川崎区大島上町23-2 第二出川荘 (044-366-4471 会社)
浅田 俊夫 (0488-63-9237)
大矢とらじ 243-01神・海老名市柏ヶ谷600-10-5-404 (0462-31-6724)
川崎 順子 品川区大井1-41-12 ビューハイツ
小宮 秀夫 157世田谷区南鳥山4-10-12-303
" 雅子 "
芝 幸男 第二常月荘3
鈴木 映子 369-03埼・児玉郡上里町七本木1736-18 (0495-33-0574)
滝沢 明美 (0298-76-2160)
外山ひろ子 355-03埼・比企郡小川町東小川3-4-3 (0493-74-1364)
西脇 威 363 (0487-86-7469)
野村 京子 山屋 (269-6367) (高野)
堀井 徳治 242神・大和上市草柳198-1 (0462-63-4288)
山賀 文恵 " (543-2689)
吉井 優 275千・習志野市日立社宅実籾B棟201
吉井 義一 170豊島区池袋本町4-46板橋AP6-304 (987-2590)

新年は片貝会とともに

賑やかに、楽しく

寒気の厳しい、冬晴れの一日であった。新年の懇親会は松下利夫さんの司会で開会された。

よき年を祈念して

副会長佐藤彦一さんが開会のあいさつの後、勝又会長から年頭のことばが述べられた。昨年末から年初にかけて、前役員三重堀繁蔵・相崎尚次両氏の急逝にあい、今更のように悲しみを新にした。また病気のために、新年会に出席されない方々の通知



もいただいた。

会員の皆様にとって、今年も明るいよい年であることを切に望みます。

母校を励ます会のこと

続いて、佐藤前会長が母校を励ます会を代表して、会計の現況と昨秋開催された、黒崎 正さんの記念講演会の様子を報告して、今後ともひき続き、変らぬご協力をお願いした。

代表の佐藤祐一さんが出席の手定であったが、急用のために欠席された。

宴たけなわ

神林徳次さんの音頭で乾杯して懇親会となる。

なごやかな歓談は、各テーブルで尽きることもなく続く。何といっても、今日のいちばんの楽しみは、皆さんとの語りである。

楽しい福引

恒例の福引の始まるのが待たれる。毎年浄照寺から賞品をいただいているが、今回は往年片貝へ巡業中に、寺に宿泊した横綱吉栗山の色紙を染め抜いた手拭が、たくさん寄贈された。このほか出席会員から提

平成 2 年 1 月 28 日  
東京新潟県人会館

供された、とりどりのお年玉がどっさり、会からも賞品を用意して例年になく盛り沢山となった。美しい二名のコンパニオンの接待で、酒も進み、料理も殊のほかにおいしかった。

会員がつきつきに繰り出す歌やしゃぎりの演奏は、いつものことながら懇親の絶頂である。かくて楽しかった新年会も、四時すぎに終了した。

尚当日、毎年青鸞荘で行われている花見の旅を、本年も四月十五、十六日に実施することが予告され、皆さんに参加を呼びかけた。詳しくは 3 面を。

ご芳志深謝

新年会に対して、出席者及び会員各位から、ご芳志をいただきました。記してお礼申しあげます。

安達宗吾 山口三郎 浅田鉄夫  
堀井豊作 黒崎 勇 五十嵐淳二  
藤田睦子 大阪 大矢三郎

追・30周年記念に際して

安達栄子(前々会長夫人)  
島峰徹郎(本会顧問、青鸞荘新潟県人会、強羅ばやし保存会出席来賓 13 名(氏名略))



新年会出席者 (60名)

〇大正

佐藤正雄 桑原キイ 神林徳次  
佐藤量八 大矢福次 安達宗吾  
山口富次 神林マス 高橋清雄  
安達徳太郎

〇昭和 2 ~ 10

小川茂雄 丸山広弥 日下部政子  
山口よし 相崎勇次 小野塚マツ  
本田政秀 吉井武二 早川松太郎  
芋川とし 丸山 春 黒崎米太郎  
山口三郎 浅田鉄一 相崎善次郎  
藤田睦子 黒崎孝造 吉原彦作  
大内登世 田口タツ 朝妻よし  
勝又 功 大矢幸治 芝三四司  
佐藤彦一 武藤睦子 堀井豊作  
森本比夫

〇昭和 11 ~ 20

山口福次 高橋四郎 浅田鉄夫  
山田チエ 丹治きみ 太刀川善蔵  
山田利雄 松下利夫 佐藤敏雄  
浅田栄三 山口光雄 山田美代治  
小宮幸雄 浅田 清 五十嵐貞雄  
友田正雄 清水松次 清水ミイ

〇昭和 21 ~ 30

山岸慶昭 小野塚茂 鯉島昭雄  
〇昭和 31 ~ 32  
吉井信三

片貝余聞

スキー大会

昨年は雪が少なく、大会は行われなかったが、今年は実施された。2月4日、小千谷スキー場で小中学生が参加して、第15回アルペンスキー大会があった。

6年の藤塚淳君が回転で一着になったほか、大回転で4位となり中学校では6位だった。また、続いて2月7日には、市内小学校の親善大会が、小千谷スキー場で開かれた。

快晴で、父母の応援も多かった距離走では、わが片貝校の入賞者はなかったが、回転では、三位、五位、六位の成績だった。スキーは山間部の学校が強いようだ。

読み聞かせ

ふるさと会館で、父母の有志が良書の読み聞かせ活動を続けている。

冬期間は休んでいたが、去る3月22日から再開された。これからは毎月第一・三金曜日の午後3時から定期的に実施される。幼い子どもらが、栄養を存分にとり入れて、大きく、豊かに育ってほしい。

有線放送が変る

有線放送が開局されたのは、昭和37年のことである。今から28年前のこと。

開局当時七百五十七世帯であったのが、現在では千十一世帯にまで増え、近隣でも異色の盛況ぶりである。

最近では施設が老朽化して修理するにも部品がなくなったりで、このままの維持管理がむづかしくなってきた。

そこで、システムを改め、スピーカーを新しくとり換えることになった。

従来通りのニュース、農業情報学校、保育所の話題、行事案内などは、却って鮮明に聞けるが、電話の通話ではできなくなる。経費もかかるが、無理なく移行できるよう、農協が説明中。

越後製菓の新社屋完成

小宮製菓を吸収した越後製菓の新工場が五月に完成して、生産を開始した。巨大な白い建物は、目を見はるものがある。

屋敷にはカントリーエレベーターができ、新野製菓の新工場や、そのほか工場がたくさんある。鴻巣には、松下電装が建ち、寺町の西部には大きな鋳物工場がある。正に片貝の夜明けの観がある。

設立8年目

更に前進を期して

母校を励ます会報告

会が満足して、8年目を迎えました。

この間、皆様の母校に対する一貫した愛校心に対し、厚くお礼申しあげます。

基金の人員も、延六百数十名となりました。

私達のこのささやかな運動に、母校の児童・生徒の皆さんから、思いがけないほどの大きな反響が

あつたことは感激でありました。そのついでに会報をも載せて、お知らせ申しました。

皆様のご協力に、改めて謝意を申しあげます。

概略ではありますが、これまでの活動内容と会計の状況は左の通りです。

ご懇寛の上、これからも変わらぬご支援をお願い申しあげます。

母校を励ます会・会計報告

会報40号以後の収支(平成2.1.1~2.5.31)

収入 ¥ 84,682 支出 ¥ 0
基金(20名) 66,000
利息(割引債・銀行) 18,682

全通算会計(昭和58.5.1~平成2.5.31)

収入 ¥ 2,458,825 支出 ¥ 1,738,479
基金(延644名) 2,286,200 寄贈図書(7回) 1,600,000
利息(割引債・銀行) 172,625 講演会(8回) 80,000
印刷郵券等 58,479
現在高 ¥ 720,346

青葉若葉の湯の旅

4月15・16日

奥湯河原青櫓荘

いつものように湯河原駅へ正午に集合する。
思いおもいに昼食をとって、一気に花見台をめざす。ほかほかと春の日射しが、身も心も浮きたたせてくれる。

今年の花は、いつになく早く訪れて、いささか調子が狂ったようだ。きてみれば、素知らぬ顔をして、花はすでに散りいそいでしまっている。

ただ新緑だけが美しく、鮮やかに風にそよびている。これもまた一興である。

茶店だけは、私達を待っていてくれて、歓迎の音楽が場内に鳴りひびいている。

みんなでおでんをほおぼり、ピールの乾杯で語りあった。そこへ隣席の花見客もきこまれて、いつそこの賑わいになった。

- 佐藤正雄 佐藤豊八 神林マス
○昭和2~10
小川茂雄 丸山広弥 相崎善次郎
勝又 功 堀井豊作 武藤睦子
○昭和11~20
山口福次 山田チエ 松下利夫
浅田栄三
○昭和21~30
山岸昭昭 吉原 登 鯉島昭夫
○昭和31~32
堀井 猛 吉井信三
以上20名

会員の声

老令(90才)のため、足腰が弱くなり歩行不自由です。昨秋長男宅にて、三輪車で散歩と医院通いの日々です。
安達市郎(大2)

三年余にわたる病院生活で、失礼しています。
松井平助(大6)

高令のため出席できません、あしからず。
五十嵐留吉(大10)

昨年三月に胆管結石で入院、その後パーキンソン病になり、手足が不自由となりました。
星野三作(大15)

会報を楽しみ、なつかしく読ませてもらうています。今病人主の介護の毎日です。
石黒ミス(大15)

八芳園の総会では、大変お世話になりました。
佐藤又次(昭5)

一月末からタイ・シンガポール・マレーシアへ視察にゆく予定のため、新年会には失礼します。
高橋忠夫(昭8)

30周年に出席して、大変感激しました。たかさんの旧知に逢えて本当に嬉しく思いました。

次回ぜひ出席したいと思えます。
中野みちよ(昭16)

縁友会は本年55才の花火を揚げることになりました。午年にあやかっつて、元氣よくはなまわりたいたいです。
山岸雪子(昭22)

会報で郷土の情報をはじめ、皆さんの様子など知ることができ、日頃から感謝しています。
吉原栄一(昭22)

法事があり、残念ながら欠席いたします。
黒崎 勝(昭28)

次々の皆様からも励ましのことは、年頭のあいさつをいただいた記して、お礼申しあげます。

- 綿織つた 石上健次 西山きみえ
神林健次 黒崎 勇 城取八重子
吉原菊枝 五十嵐綾 山口吉五郎
清水松次 清水ミイ 小野塚五郎
石田貞子 気田登美 山口ミナ子
西山和子 安達弘男 金井ヨシ子
宮沢昭八 宮沢道子 山本文子
新沢須美 千葉悦子 本田善一
久賀友作 吉原武夫 (敬称略)

東京片貝会会計報告 (自平成元・4・1 至平成2・3・31)

収入総額	¥4,159,976	支出総額	¥4,159,976
前年度繰越	645,340	新年会	334,920
別途積立	300,000	会報(39・40号)	174,510
年会費	410,000	30周年会	2,791,304
新年会費(60)	300,000	表彰記念品	57,680
同上祝儀	16,000	八芳園	1,555,700
30周年会費(126)	1,008,000	強羅ばやし	300,000
同上祝儀	206,000	通信費	80,838
記念誌寄付金	1,147,000	通記誌(400)	577,615
利息	127,636	来賓旅費	20,000
		印刷費	37,290
		印費	49,131
		郵送料	84,910
		V D・事務費	28,140
上記の通り報告致します		通信費	77,144
平成2・3・31		印刷費	12,400
会計部長 黒崎 孝造		慶弔費(三重堀・相崎)	65,000
〃副部長 山口武一郎		運搬費	9,000
上記は適正且つ正確であることを認めます。		事務費	1,637
会計監査 小川 茂雄		指替手数料	17,270
大矢 幸治		雑費	1,037
高橋 四郎		別途積立	300,000
		次年度繰越	365,754

山は青く・水は清き  
ふるさと・は・今

町の話題

今年も盛んな賽の神

1月15日

拝者で埋められた。

伝統芸能の保存

片貝の伝統芸能は何か、と聞かれたらどう答えますか。

「木遣り音頭」と答えるでしょう。ところが、最近ではこれが色々に変化してきているという。

町内毎にあった独自のしゃぎりも、コンクールに受けのよい曲ばかり演奏されている。又「木遣り音頭」を正確に歌えない若者も増えている。

ましてや巫子命に至っては、近年全く見られなくなっている。某師様と八幡様、神明様には保存されているらしいというが。

そこで、公民館長の安達精二氏、同窓会長の本田正史氏らが中心になって、ビデオなどにこれを撮影して、正しく後世に伝えよう

という運動がおきた。伝統芸能保存会として発足することになった。

四年連続の暖冬  
毎年小栗田原で盛大に行われていた雪原まつりは、雪不足のために、雪原のイメージが薄れてしまっている、全面中止になった。



大屋敷に若手会発足

30才以下の若者達16名で結成された。同じ町内に住みながら、互いに語りあうことも少なかった。

何よりも自分達の再発見と活性化をはかることが第一目的である。

餅つき大会や、レクリエーション大会(小学校体育館)を開催してこれからも、いっそうの親睦を深めることになった。

春祭り

4月24・25日  
秋にくらべると静かな祭りであるが、両日とも夜には、舞殿で地元愛好者による「民謡の夕べ」が奉納されて賑わった。

三の町のほのほの広場では、鯉のぼりと風船を揚げて、子ども達に喜ばれた。十一屋さんによる無料サービスの油揚げが、道ゆく人

達に配られた。賽の神の日も催しがあったが、町の活性化に寄与するところが大きいと、人気を呼んでいる。

どうなるバイパス  
魚沼線廃止後の跡地にバイパスができることになっていた。それが延びのびになって今日に至っている。

今度始めて市の予算もつけられることになり、漸く、具体化される。

母校の近況

中学校の新校会はどこに  
どこに建てるか、で統一見解が煮つもらないため、昨年の暮にアンケートが実施された。

現在の場所、広いグラウンドを中心にして今より高い位置に、全く新しい土地に、の三案があった。

その結果第一案が、全体の半数を僅か越える結果となった。恐らくその線で、改築が進められるのではなからうか。

今春の入学生  
小学生は69名(昨年より10名多い)、中学生は70名(昨年より1名多い)。いずれも二学級編成で合計して、昨年より11名増えたことになる。

バスケット大会に準優勝  
中越地区(長岡)2月12日  
参加チームは50あったが、最後に小千谷中と片貝中が残った。始

め片貝中がリードしていたが、残り3分時点で逆転されて、39対31で惜敗した。

両校とも3月18日に新潟市で開かれた県大会に出場した。

片貝中はベスト8まで進んだが惜しくも準々決勝で惜敗した。(第4回BSN杯)

教頭先生の異動  
4月1日  
小学校の木村秀明先生、中学校の毛利厚先生は転任となり、小学校へは与板小から長谷川一夫先生、中学校へは大和中から和田齊先生が着任された。

今後ともよろしく願います。

体育協会長の異動  
長い間町の体育発展のために尽力されていた丸山良平氏が今度勇退されて、吉原芳郎氏が就任された。

百五才の安達力ウさん  
市内随一の長寿者安達さんは、この四月百五才を迎えられた。尚元気で暮らしていられる。

あとがき  
年に一回発行しているこの会報が、皆様にいささかなりと役だっていることが、お便りによってよく分かります。それがまた編集者にとつての励みにもなっています。

縁あって片貝に生を受けた私共です。たてや横の輪を広げつつ、この会報を育てていきたいものです。41号をお届け致します。